

# 敬語の達人

大分市立上野ヶ丘中学校弦本 武俊

## 1 特徴

日常生活の中で敬語を使う場面をコンピュータで仮想体験をさせることで、敬語についての理解を深めさせ、適切に敬語を使うための基礎を身に付けさせる学習支援ソフトである。

敬語についての【解説編】、【問題編】の2本柱を中心とした設計となっている。

## 2 内容

### ①敬語とは[解説編]

敬語を使ううえでの基礎知識と言える事柄を解説した。

「丁寧語」、「尊敬語」、「謙譲語」:定義・特徴を解説し、語例を挙げた。

「美化語」:上記の3種類の敬語とはやや異なり、自分の言葉遣いを丁寧にする意図で用いる語であることを解説し、語例を挙げた。

「尊敬語と謙譲語」:「相手」と「自分(話し手)」という2人の人物を画面左右に表示し、画面右に列挙した単語をクリックすることで、その人物がアニメーションし、人物間の関係(立場)を模式的に示す。

### ②[問題編]

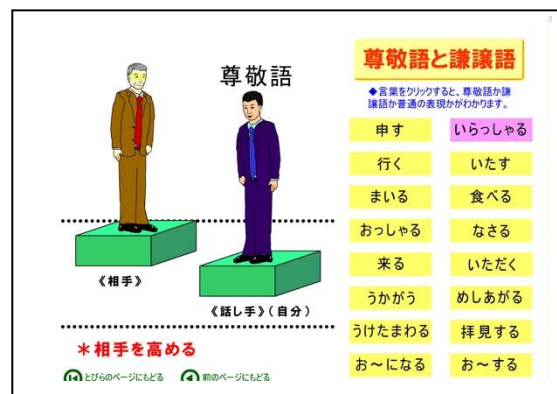
中学生が日常生活の中で体験しうる敬語を使うべきシチュエーションを取り上げた50問の問題から、1セットにつきランダムに10問が出題される。生徒は、それぞれの問題に対して3つ設定されている選択肢の中から最も適切なものを選び、その文をキーボードから入力して回答する。

誤答の場合、その理由・解説が表示される。入力ミスの場合、その旨表示し、入力の訂正を促す。1セット10問を全て回答し終わると、100点満点で得点が表示される。

## 3 実践結果・内容

一般に中学校国語科における敬語の授業には、あまり多くの時間は割り当てられていない。本校の教育課程においても2時間扱いである。そこで、第1時は普通教室で教科書・ノート・黒板を利用した授業、第2時はコンピュータ教室で本ソフトを活用した授業を展開した。

授業後に生徒にアンケートを実施し、有効性を検証し、



以下のことがいえる。

### ①敬語に対する意識

生徒たちが自分では敬語を使っているつもりだが、はたしてそれが場に応じた適切なものであるかということについて心もとないという現状が見て取れる。

### ②学習内容の理解の度合い

本ソフトが学習内容の理解を助ける役割を十分担ったうえに、コンピュータ操作に慣れるという二次的役割を果たしたといつてよい。

### ③学習に対する主体的な取り組みの度合い

コンピュータを取り入れた授業が生徒の主体的かつ意欲的な取り組みを喚起している。

### ④敬語に対する興味・関心の度合い

本ソフトの利用で、敬語についての興味・関心を喚起するという点においては、いささか効果は薄かったかといえる。

総体的に本ソフトの初期のねらいである「敬語についての理解を深めさせ、生活の中で適切に使うための基礎を身に付けさせる」ことは、ほぼ達成できたと考える。